

第4章

生涯学習推進のための施策の3本柱

第 4 章 生涯学習推進のための施策の 3 本柱

基本的な柱 1 生涯学習活動の促進

国際化、情報化、科学技術の急速な進展のほか、少子・高齢化等、社会環境の変化にともない、個人のライフスタイルも多様化してきました。人生の各段階（乳幼児期・少年期・青年期・壮年期・高齢期）には様々な課題があり、その解決のためには各「ライフステージ」※に対応した生涯学習の推進が必要です。

施策の方向

(1) 一人ひとりの生涯にわたる主体的な学習への支援

人が一生を過ごしていくなかで、各段階（乳幼児期・少年期・青年期・壮年期・高齢期）において様々な課題があります。また、それぞれに各段階に対応した家庭教育、学校教育、社会教育と自学自習があり、これら生涯を通じて学習することが大切です。各個人が目標を持って主体的に学習活動を実践していくことは、各段階にある課題の解決につながり、次の目標に向かったあらたな学習への意欲となっていきます。市民が生涯を通して健康で生きがいの持てる人生を過ごし、それぞれが目標を持って主体的に学習を行なえるよう環境整備を継続的に進めていくことが必要です。

生涯学習市民アンケートの結果では、市民の学習の状況は「パソコン・インターネット」が 22.8% で第 1 位、「自宅で活動」が 21.6% で第 2

位と個人の学習が上位を占めています。より多様な市民の学習活動を支援するため、生涯学習関連施設を活用して多様な学習機会を提供します。

また、学習情報の提供に関して、アンケート結果では「インターネット」が 27.3% で第 2 位になっています。生涯学習情報サイト「e-glad!」を充実させるとともに、あらゆる方法を活用した学習情報の提供に努めます。

◆主な施策

①生涯学習関連施設を活用した多様な学習機会の提供

市民の主体的な学習活動を支援し、多様化する学習ニーズに対応するため、生活家庭館、地区市民館などの生涯学習関連施設を活用し、成人を対象とした生涯学習市民大学トラム、子育てをする父母などを対象に家庭教育事業、高齢者を対象とした高齢者セミナーなどを開催します。

また、美術博物館、自然史博物館・地下資源館・視聴覚教育センターでは、より魅力的な展示や教育プログラムの充実を図ります。

②あらゆる機会・方法を活用した学習情報の提供

多様化する市民の学習需要に対応するため、市民のニーズに対応した学習情報の提供が必要です。

生涯学習情報サイト「e-glad!」では、インターネットを通して市、市内の大学、近隣市町、関係団体の情報を総合的、一体的に提供していくため、さらに充実を図っていきます。また、生涯学習情報紙『グラッド』でも、より多くの情報を掲載するため紙面の拡充を図っていきます。

今後、情報通信技術の発展により、学習情報の提供についても、様々な形態が考えられることから、他の情報携帯技術の活用についても充実を図

っていきます。

③だれでも、いつでも、何でも気軽に相談できる相談体制の整備

市民の主体的な学習活動を支援するため、学習機会の整備のみならず学習への需要と供給のマッチングを図るための支援を行なうことが重要です。地区市民館では、各種学習事業を展開しながら、市民の様々な学習相談に対応するための体制の整備を図っていきます。

また、生涯学習サポートボランティアを育成し、地区市民館における学習相談のサポートを行なっていきます。

④生涯学習に関する普及・啓発

生涯学習を推進するためには、市民一人ひとりが生涯を通じて学習することの意義について理解を深め、市民が自ら学ぶ意欲を高め、学習意欲を喚起するための普及・啓発が重要になります。

豊橋市では、生涯学習に関する各種イベントや学習成果の発表や講演会を実施する「生涯学習活動推進大会」*を平成 21 年度から実施しています。市民が「生涯学習活動推進大会」をきっかけに自ら生涯学習に取り組もうという気持ちを喚起するよう、この大会の内容の充実、また市民に周知を図ることにより参加者を増やし、生涯学習の普及・啓発を図っていきます。

⑤学習活動を支援する専門的職員の充実

生涯学習施設における専門的職員として、教育委員会における社会教育主事や各地区市民館の館長である社会教育指導員や市民館主事、図書館司書、博物館学芸員などがあげられます。これらの専門的職員は、生涯学習行政の中核として、地域の生涯学習行政の企画・実施や専門的・技術的な助言と指導に当たることを通して、人々の自発的な学習活動を推進する役

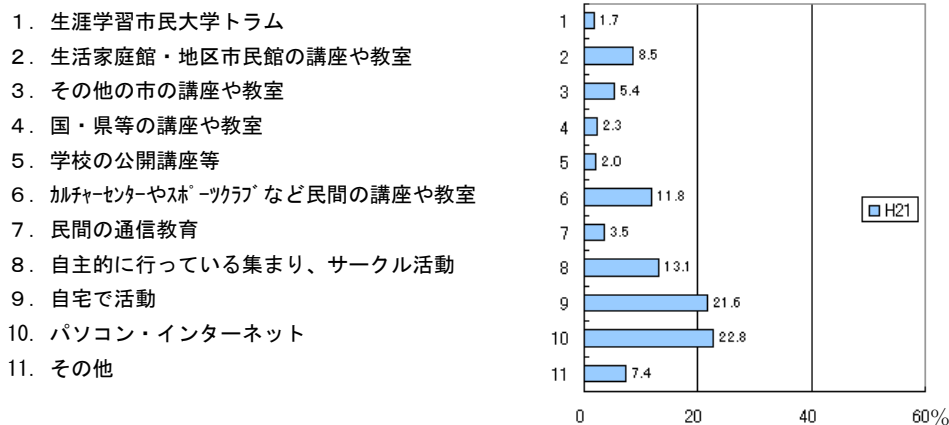
割を果たしていかなければなりません。

現職の社会教育主事、社会教育指導員、司書、学芸員などに対して社会の状況に対応し、地域住民の高度化・多様化する学習ニーズに対応できるよう研修会や講習会を実施していきます。

参考資料<市民アンケート結果>

〔市民の学習状況の現状〕

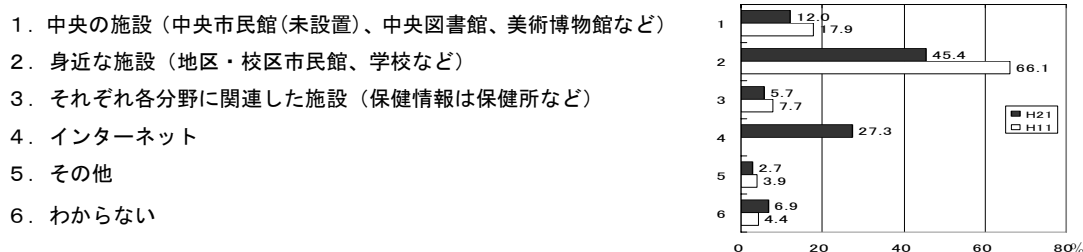
質問事項：あなたは現在どのような方法で学習を行っていますか？



- 「パソコン・インターネット」での活動が第1位で22.8%であった。第2位は「自宅で活動」で第1位・第2位を合わせると約半分の人が個人での活動と回答している。
- 「生涯学習市民大学トラム」「生活家庭館・地区市民館の講座や教室」と回答した人は合わせて10.2%で、「カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間の講座や教室」の11.8%とほぼ同程度であった。

〔生涯学習情報提供の現状〕

質問事項：あなたが学び・活動するために必要な情報や資料は、どこにあればよいと思いますか。



- 今回追加した項目の「インターネット」が27.3%で第2位となり、情報入手の手段として多くの人に活用されていることがわかる。
- 第1位は「身近な施設(地区・校区市民館、学校など)」で前回と同じであったが、66.1%から45.4%と大幅に減となっている。

◆取り組みの目標

- ・社会教育施設利用者数を1,020,000人にします。

(H21年度実績 1,010,031人)

- ・生涯学習活動への延べ参加者数を増やします。

(H21年度実績 27,496人)

施策の方向**(2) 社会の変化に対応した生涯学習の推進**

本市では、多様化、高度化する市民の学習ニーズに対応するため、生涯学習推進計画を策定して、様々な学習情報や学習機会の提供、学習施設の整備を行なってきました。これまでの個人の学習活動は、「こころの豊かさ」や「生きがい」を求めたものであり、個人の主体的、実践的な学習活動に重点を置いてきました。生涯学習市民アンケートの結果でも、学習の成果の活用について、「家庭・日常の生活に生かしている」が22.5%で第1位、「自分の人生がより豊かになっている」が18.3%で第2位と、個人の生活や家庭に生かしているという回答が多く、「ボランティア活動に生かしている」「地域や社会での活動に生かしている」と回答した人は3%~4%とごく僅かです。

人口の減少、高齢化社会の到来、科学技術の急速な進歩や情報化など社会環境が激しく変化し、経済・産業構造の変化や雇用形態が変化していくなか

で、「現代的課題」※に対する社会の要請が高まっています。こうした「現代的課題」の解決に向けては、地域が連携して課題にあたることが重要です。

また、生涯学習市民アンケートの結果から市民が求める生涯学習を推進していくための仕組みづくりについて、「育成した人材が活動できる仕組みが大切」が37.3%で第1位でした。

これをうけて、引き続き個人の学習活動を支援しながら、その学習の成果を地域のなかに活かしていくことは、地域の連携の強化、地域全体の教育力の向上につながります。「現代的課題」への対応として行政の役割は、市全体で生涯学習を推進する体制を確立するとともに、国・県との連携、ボランティア・市民活動団体、民間企業などと連携して社会全体で生涯学習を推進していくことです。

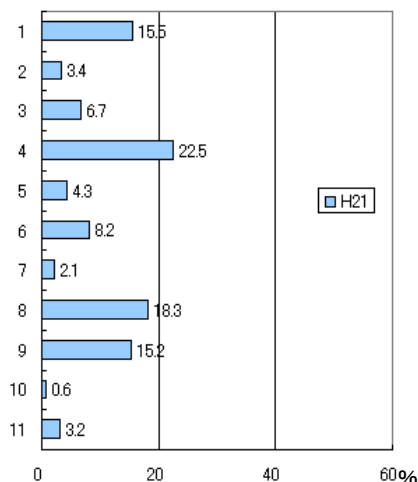
地域団体やボランティア・市民活動団体、民間企業などと連携し個人の学習活動を支援するとともに、その学習成果を地域社会へ活かすためのシステム作りを推進します。

<参考資料<市民アンケート結果>

[市民の学習成果の活用の状況]

質問事項：あなたは、「生涯学習」を通じて身につけた知識・技能や経験をどのように生かしていますか。

1. 仕事や就職の上で生かしている
2. ボランティア活動に生かしている
3. 資格を取得した
4. 家庭・日常生活に生かしている
5. 地域や社会での活動に生かしている
6. その知識・技能や経験を土台にして、さらに広く深い知識・技能を身につけるよう努めている
7. 他の人の学習やスポーツ、文化活動などの指導に生かしている
8. 自分の人生がより豊かになっている
9. 自分の健康の維持・増進に役立っている
10. 学業、学校生活の上で生かしている
11. 生かしていない

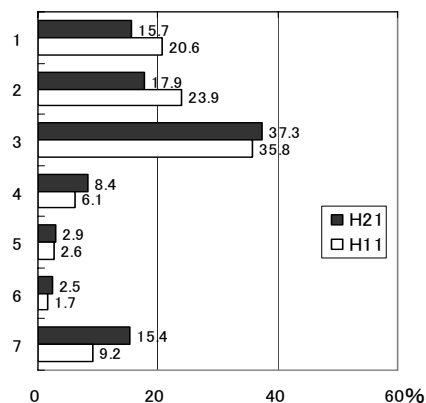


○ 第1位は「家庭・日常生活に生かしている」で22.5%であった。また、「自分の人生がより豊かになっている」が18.3%で第2位、「自分の健康の維持・増進に役立っている」が15.2%で第4位となっており、個人の生活に生かしたり、生きがいとなっていることがわかる。

[市民が求める生涯学習を推進していくための仕組みづくりについて]

質問事項：生涯学習を進めるには、それに対応した人材の育成や研修制度が必要と言われていますが、どのような考え方で進めるのが適切と思われますか。次の項目から1つ選んでください。

1. 生涯学習や活動を支援するボランティアの育成が大切
2. 生涯学習や活動を中心になって指導するリーダーの育成が大切
3. 人材の育成も大切だが、育成した人材が活動できる仕組みが大切
4. 研修などを受けたとき、資格を取得できることが大切
5. 現在活動している地域のリーダーが研修を受けることが大切
6. 必要ない
7. わからない



○ 前回同様「人材の育成も大切だが、育成した人材が活動できる仕組みが大切」が第1位で37.3%あった。
 ○ 第2位、第3位も前回同様で、第2位の「生涯学習や活動を中心になって指導するリーダーの育成が大切」は17.9%、第3位の「生涯学習や活動を支援するボランティアの育成が大切」については15.7%であった。

◆主な施策**①市民活動団体・民間企業などと連携した生涯学習活動への支援**

市民の多様化、高度化する学習需要への対応や「現代的課題」に対応した事業を開催していくために、ボランティア・市民活動団体、民間企業などの持つ専門性を取り入れて生涯学習事業を推進していきます。

生涯学習市民大学トラム、家庭教育事業など各種講座において、連携した講座を開催するとともに、ボランティア・市民活動団体、民間企業などが主催する事業においても、活動の場として市民館を提供するなど積極的な支援を行なっていきます。

また、生涯学習市民大学トラムなどの事業について、ボランティア・市民活動団体、民間企業などの専門的な意見を取り入れていきます。

②学習成果を地域社会へ活かすためのシステムの構築

市民一人ひとりの学習活動を促進するためには、学習機会の充実を図ることのみならず、各個人の学習成果を活かすことができるシステムの構築を図っていく必要があります。個人が学習した成果を地域社会へ活かしていくために、人材を発掘し、その情報を提供していくためのシステムを構築していきます。人材の発掘に関しては、地区市民館を拠点として、校区市民館などと連携をとりながら講師、指導者の登録制度を確立します。また、発掘した人材については、生涯学習情報サイト「e-glad!」を活用して情報提供を行なっていきます。

③市民活動への支援

各個人の学習機会の充実のため、また、同時に学習成果の活用のために身近な地域で誰もがボランティア活動に参加できるようオレンジプラザ、ボランティアセンターとの連携を図っていきます。

また、地域のなかでボランティアの活動拠点となるよう、校区市民館を活用していきます。

④高齢者の生きがいがづくり、社会参加の促進

今後ますます少子・高齢化が進行していくなかで、高齢者一人ひとりが健康で生きがいを持って生活していくことができるよう、学習活動の場を提供するとともに、豊富な知識や経験を活かすことのできるよう講師やボランティアなどへの社会参加を促していきます。

生涯学習市民大学トラムでは、消費生活や健康づくりに関する講座を充実させるとともに、高齢者セミナーでは、高齢者の交流、仲間づくりを推進していきます。

また、市民館で活動する自主グループの情報を提供することで、学習活動への参加を促すとともに、「地域いきいき子育て促進事業」など地域の活動の中で、講師、ボランティアとしての参加も促していきます。

⑤少子化対策の取り組み

少子化の進行は、子どもの人口の減少と高齢者数の増加という人口構造の変化を伴うものであり、それにより社会に大きな影響を与えることが懸念されています。子どもは将来の人材資源であり、少子化の進行は、社会や地域の基盤を揺るがすものです。

そして、子どもの人口の減少は、子ども同士が交流することによりお

互いに切磋琢磨し、社会性を育みながら成長していくという機会の減少へとつながり、子どもが自立してたくましい大人へと成長していくことが困難になります。子どもは「社会の宝」であるという考えに基づき、次代を担うすべての子どもを社会全体で育てる環境づくりに取り組む必要があります。

そのため家庭教育に関する情報や学習機会の提供、相談体制の充実など、きめ細かい家庭教育を支援していきます。また「放課後児童クラブ」や「放課後子ども教室」などによる子どもの安全・安心な居場所づくりを推進します。

⑥環境学習推進のための施策

「教育基本法」（第 2 条）に、教育の目標として「生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。」が新たに規定されています。地球温暖化や自然破壊などは、地球上のあらゆる生態系に悪影響を及ぼし、市民の健康や社会経済活動へも深刻な影響をあたえます。豊かな自然環境を守り、将来の世代に引き継いでいくためには、エネルギーの効率的な利用や自然環境への影響が少ない社会を構築することが大切です。そのためには市民が様々な機会を通じて環境問題について学習し、自主的・積極的に環境保全活動に取り組んでいくことが必要です。

市民が環境保全や環境に対する基礎知識について理解を深め、環境に配慮した生活を送る意欲を喚起する環境学習の機会を設けます。また、生涯学習施設の立地や地域の資源を活かした自然体験活動など様々な体験学習の推進に取り組んでいきます。

⑦消費者教育の推進

情報化の進展や消費者ニーズの多様化に伴う取引形態や販売方法の多様化による契約トラブルや巧妙化する悪質商法による被害は年代を問わず絶えません。こうした消費者トラブルを未然に防ぐため、講座の開催や情報提供などを行い、消費者に対する意識の啓発や消費者問題に関する事業を推進します。

⑧男女共同参画に関する取り組み

男女共同参画社会とは、男女が互いにその人権を尊重し、喜びも責任も分かち合える対等なパートナーとして様々な分野に参画し、男性も女性もその個性と能力を十分に発揮することのできる社会です。このような男女共同参画社会の実現に向けて、家庭教育や地域における教育の充実を図り、男女共同参画の意識を醸成します。また、男女が各人の個性と能力を十分に発揮し、社会のあらゆる分野に参画していくための多様な生涯学習機会の提供を図ります。

◆取り組みの目標

- ・社会環境の変化によって生ずる現代的課題に対応した講座数を増やします。

(H21年度実績 24講座)

基本的な柱2 家庭教育・地域教育の推進

生涯学習を自ら推進していく上で重要なことは、社会の変化や要請に対応し、「現代的課題」を見つけ、解決する「生きる力」※を身につけることです。とりわけ次代を担う子どもたちに必要な力であり、「家庭はすべての教育の出発点である」ことを認識し家庭の教育力の向上を図ることが必要です。

また、学校、家庭、地域がそれぞれの役割を認識するとともに、互いに連携し、次世代を担う子どもの育成に努めることにより、地域の教育力の向上を図ることが重要です。

そして、地域の教育力を高めるためには、地域の教育資源を活用した、郷土を愛する心を育む生涯学習活動を展開することが必要です。さらに市民の学習活動を促進するためには様々な市民活動団体と連携することが大切です。

施策の方向**(1) 家庭の教育力の向上**

都市化や急速な少子・高齢化、核家族化等の家族構成の変化を背景として、児童虐待やいじめなどが社会問題化しています。その原因の一つが家庭での教育力の低下であると指摘されています。

家庭は、子どもの人格形成が行われる最初場であり、子どもの成長にとって大きな役割を担っています。社会のルールや物事の善悪を理解させ、規則正しい生活や社会性を身に付けさせるなどの役割を担うと同時に、親や地

域の人との強いきずなを通じて、子どもに安心とやすらぎを与える場でなくてはなりません。家庭におけるふれあいの充実、家庭の役割に関する父母等への学習支援、地域や企業等による子育て教育などの取り組みを推進します。

◆主な施策

①家庭におけるふれあいの充実を目指した乳幼児教育の推進

さまざまな遊びや読み聞かせなどを通して、親子のふれあいを図るとともに、父母などに対して「幼児ふれあい教室」や「家庭教育講座」などの子育てに関する事業を充実します。

②家庭の役割に関する父母などへの学習支援

孤立しがちな親や、子育てに関心のない親を含む様々な状況にある親たちに対して、学校などへ集まる機会を利用して、家庭教育講座を充実します。また、子育ての支援として、子育てに関する機関のネットワーク作りや子育てサークル等への支援に努めるなど、父母などへきめ細かい家庭教育支援を推進します。

③地域や企業などによる子育て教育の推進

子育てについて学ぶ機会を持たずにいる働く父母などのために、地域や企業等と連携して「企業内家庭教育講座」を開き、学ぶ機会を提供します。

④父親参加型事業の推進

家庭の教育力の低下、少子化への対応として母親だけでなく家族全体での子育て教育が望まれています。特に父親の育児参加や家庭教育の重要な役割の担い手として父性の必要性が指摘されており、育児に関心を

持つ父親も増えてきています。子どもとの接し方や子どもの発育についての知識を得るため、父親を含む家族に対して講座を開設し、学ぶ機会を提供します。

⑤教育相談環境の充実

子どもを持つ父母などに対して家庭教育支援を行なうため、子育ての悩みや様々な困難を抱える父母などに対して相談体制の充実や情報提供を図ります。

◆取り組みの目標

- ・多くの父母などに対して、子育てに関する家庭教育事業への参加数を7,500人にします。

(H21年度実績 5,022人)

施策の方向

(2) 学校、家庭、地域の連携

学校教育は様々な問題を抱え、学校だけでは対応しきれない時代に入っています。また、地域においては、コミュニケーションや人間関係の希薄化に伴い、住民同士がつながりを失い、その活力が低下しているとの指摘もなされています。

そのため、学校、家庭及び地域住民のほか、社会教育関係団体や、その地域の企業やボランティア・市民活動団体などの関係者が一体となり、緊密に

連携・協力して地域の教育に取り組むことが求められています。そして地域の教育資源である地域の人材を発掘、活用し、地域の様々な団体やボランティア・市民活動団体などとの連携と協力を推進します。

◆主な施策

①地域の人材の発掘、活用による地域の資源や財産を活かした学習の推進

学校が核となり地域ぐるみで教育活動にかかわっている「地域教育ボランティア制度」を地域全体で支援し、子どもが地域の行事に積極的に参加できるような働きかけをすることによって、地域で子どもを育てる風土をつくりあげます。

②地域活動や社会教育関係団体などへの支援及び連携・協力の推進

P T A、子ども会などの社会教育関係団体が、地域における教育活動の充実について連絡・協議を行い、子育てや地域コミュニティを視野に入れた子育て団体間のネットワークづくりを推進します。

また、社会教育関係団体やグループ等の指導者養成事業を実施します。

③地域の教育力の向上

地域における歴史・伝統・文化を理解するための地域講座や、地域での生涯学習活動等の指導者を養成するためのボランティア養成講座を開設します。

④学校教育の充実

学校教育は、心身ともに著しい成長を遂げる子どもの発達段階のなかで、生涯学習の基礎を築く重要なものです。学校は、子どもたちの「生きる力」を育むために、家庭や地域社会と連携し、特色を活かしながら

地域ぐるみで学校づくりを推進しています。

そこで、学びの対象や場が、教室や校庭にとどまることなく、地域全体に浸透し、有効に機能するように、教科や領域を問わず、さまざまな場面で、学校の教育活動をサポートしていきます。

◆取り組みの目標

- ・社会教育関係団体の横の連携を図るため、各校区ごとにネットワーク化を図り、その数を増やします。

(H21 年度実績 指数なし)

施策の方向**(3) 地域の資源や財産を活かした学習の推進**

郷土の豊かな自然や地域の歴史、文化に接する機会を増やし、郷土に対する愛着と誇りを醸成する学習が求められています。そのためにも、自然や文化財に対する市民の理解を深めながら、適正な保存と活用に努め、次の世代へ継承していく必要があります。そこで、市内に残る貴重な文化財や「自然史資料」*を次世代に引き継ぐため、市民の理解や協力を一層深めながら、文化財保護施策、博物館活動を推進します。

豊かな人間性を育てる「ほんもの体験活動」*を重視しつつ、地域の豊富な資源に対する理解を深め、郷土の魅力を再認識してもらうため、市内の自然や文化財などを有効に活用した地域学習活動の充実に努めます。

◆主な施策**①郷土の自然や文化財などを活用した地域学習活動の充実**

郷土への愛着や理解を深め、郷土の魅力を改めて感じてもらうため、地域に密着した作家・作品の展覧会や郷土の自然史の学習などの博物館事業、また、郷土の歴史、文化、自然をテーマにした生涯学習市民大学トラムなどを実施します。

②文化財の保存と活用

後世に継承するため、史跡・天然記念物・有形文化財・有形民俗文化財・無形民俗文化財・登録文化財等の保護に努めます。また、歴史資料

の計画的な収集や調査を行い、保存と活用を目的とした資料整理を行います。

③豊かな自然環境を保全活用する学習機会の充実

自然史の講座、野外観察会など自然体験・生活体験ができる事業や地域で学習活動ができる機会の充実を図ります。

④食育・食農教育の推進

地域にあった「食農教育」*の推進を図り、食を支える農の役割と地域の食文化や健康についての理解を深めるとともに、生産者など専門家の話を聞くことによって食育について学ぶ機会の充実を図ります。

また、子どもの成長に合わせた食育・食農教育を学ぶと共に、実際に土にふれ野菜を育てることで、親子で食べ物について考える事業を推進します。

◆取り組みの目標

- ・市民の専門的で多様な学習ニーズに応えるとともに、郷土の歴史や文化、自然などを学ぶ講座や事業を実施します。

(H21年度実績 11講座)

施策の方向**(4) 地域活動や団体への支援及び連携促進**

ボランティア・市民活動団体などの様々な主体による自主的な学習活動や協働による地域活動が活発に展開されています。こうした地域コミュニティの発展を、専門的・先駆的に取り組んでいる団体と連携して地域の課題解決に向けた活動を行なっていくことが大切です。併せて、学習の成果をいかに地域の活性化や特色あるまちづくりにつなげていくかが課題です。

生涯学習関連施設の有効活用を図るとともに、自主グループ活動を支援し、さらに地域の大学やボランティア・市民活動団体などとの連携を図ることにより、より専門的な歴史、文化の学習を促進します。

また、地域の日本人と外国人が、互いの異なる生活習慣や文化、価値観を認め合う共生の地域づくりに努めます。

世代を超えて豊橋を愛する心を市民一人ひとりが共有し、学ぶ楽しさと学ぶ喜びを分かち合うことができる生涯学習社会の実現を目指します。

◆主な施策

①自主グループ活動やボランティア活動の推進

生涯学習関連施設を中心に、郷土の歴史や文化、自然について学習する自主グループやボランティア・市民活動団体などが活動できる環境の充実を図り、地域に関する生涯学習の活性化と連携を推進します。

郷土の歴史、文化、自然をテーマにした生涯学習市民大学トラム受講者の有志による自主グループ化を推進します。

②地域コミュニティ活動の促進

市役所と市民が協働で行なう事業や家庭教育・地域教育推進事業を促進し、コミュニティ活動などボランティア・市民活動団体の活動を支援し、市民活動の活性化と連携を促進します。併せて、市民の生涯学習活動の一層の学習意欲を高めるための学んだ成果を発表するイベントや、学習の成果を地域に活かすための市民講師が活躍できる場と機会の充実を図ります。

③多文化共生の推進

地域の日本人と外国人が、互いの異なる生活習慣や文化、価値観を認め合い、地域における様々な活動とともに参加・協力する共生の地域づくりに取り組みます。

④子ども・若者の育成活動の促進

子ども・若者の育成活動を活発に展開するため、子ども・若者の育成団体の自主性を尊重しつつ、活動に対する支援を行なうことや、団体相互の連携強化を図ります。

◆取り組みの目標

- ・地域いきいき子育て促進事業の実施回数を増やします。

(H21 年度実績 897 回)

基本的な柱3 生涯学習・社会教育施設、図書館の充実

市民の多様かつ高度な学習ニーズに応えるとともに、ライフステージに対応した生涯学習活動の促進や生涯学習推進の基礎づくりなど、さまざまな視点から生涯学習関連施設のあり方や、それに適した機能・設備・運営方法などを検討し、利用者が安全で快適に利用でき、また利用率の向上につなげられるよう施設の整備や充実を図ります。

施策の方向**(1) 生涯学習関連施設の整備**

総合的な生涯学習環境整備のうち、地域の中で多様な学習が行なえる「場を構築する仕組み」や「各地区に魅力的な拠点があり、活動できるまち」を推進するため、「拠点的地区市民館」のリニューアルを平成14年度から順次行ない、施設のバリアフリー化、フリースペースの確保、子育て支援機能の充実などの整備を行なってきました。また、図書館分室機能の充実のため、中央図書館・配本センターとのネットワーク化を行なってきました。全市的な施設として、総合スポーツ公園の整備やアクアリーナ豊橋、りすば豊橋、こども未来館の建設、旅籠屋「清明屋」の改修復原、自然史博物館の古生代展示室・中生代展示室をリニューアルオープンするなど段階的に施設整備を行なってきました。

しかしながら、生涯学習関連施設の中には地区市民館をはじめ老朽化が著

しい施設が多くあります。また、市民アンケート結果からも「既存施設（地区・校区市民館）をまず有効活用することが大切」という回答が、平成11年の調査と同様に第1位（72.7%）であり、多数を占めていることが分かることから、今後も、経年による老朽化が著しい生涯学習関連施設は、施設耐用年数までの安全な施設使用を確保することや有効活用が図れるようにするため大規模改修を実施する必要があります。

この大規模改修を実施する中で、市民の多様かつ高度な学習ニーズにあわせた改修や環境にも十分に配慮した施設整備を目指し、生涯学習推進のための環境づくりを計画的に行ないます。

◆主な施策

①生涯学習関連施設の整備・充実

市民の多様かつ高度な学習ニーズにあわせた改修を行ない、生涯学習活動の拠点施設としての整備・充実を目指します。また、現在の機能を整理・見直しできる施設については、有効活用するための検討を行ない計画的な整備・充実を目指します。

②老朽化やバリアフリーへの未対応施設の整備・充実

特に老朽化が著しい施設である地区市民館、校区市民館、図書館、美術博物館などについては、洋式トイレや多目的トイレ、通路手すりや段差解消などのバリアフリー対策や環境にも十分に配慮した施設整備を目指します。

◆取り組みの目標

- ・利用者が安全で快適に利用できるよう、老朽化した施設の充実を進めていきます。

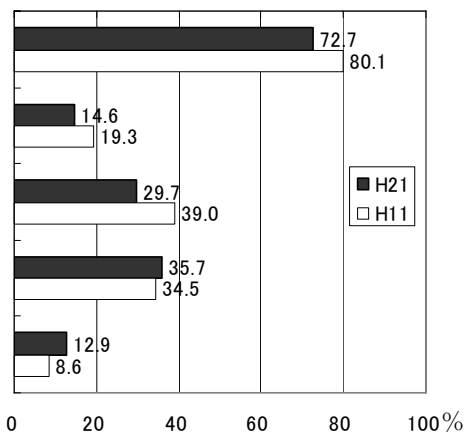
(H21 年度実績 豊城地区市民館リニューアル)

参考資料<市民アンケート結果>

[学習施設の整備について]

質問事項：今後、学習施設を整備していくとしたら、どのような考え方がよいと思いますか。
次の項目から重要な順に2つまで選んでください。

1. 既存（地区・校区市民館）施設をまず有効活用することが大切
2. 魅力のある中央市民館をまず整備すべきだ
3. 身近な学習施設全般を整備すべきだ
4. 施設より学習活動の支援が大切
5. わからない



○ 「既存（地区・校区市民館）施設をまず有効活用することが大切」が 72.7%あり、前回同様第1位であった。

「身近な学習施設全般を整備すべきだ」は 39%から 29.7%と 9.3ポイント減、「魅力ある中央市民館をまず整備すべきだ」も 19.3%から 14.6%と 4.7ポイント減であった。

施策の方向**(2) 生涯学習関連施設の機能の充実**

生涯学習関連施設は、身近な地域のどこにでもあり、誰でも生涯学習活動を行なうことが可能な施設であること、様々な情報や活動の集中する施設であることが必要であると考えます。また、地域団体やボランティア・市民活動団体、民間企業などとの連携により地域の核となり、地域の課題解決や地域の活性化へつなげられる施設として、機能強化を図ることが必要であると考えます。

このようなことを踏まえ、生涯学習関連施設は、子どもから高齢者まであらゆる世代が気軽に集まり、生涯学習活動ができる施設づくりや「ライフステージ」に対応した生涯学習を促進するための環境整備を目指します。また、地域の課題解決や活性化へつなげるために機能の充実を図ります。

◆主な施策**①生涯学習活動を促進するための環境の整備**

生涯学習に関する活動や相談の場を充実します。子育て中の父母等が「こども未来館ここにこ」などに気軽に集まり仲間づくりをしながら、日ごろの悩みを話し合い、子育ての情報交換の場とします。また青少年にとっては、読書や異世代との交流の場となるようにします。成人にとっては、自己のスキルアップや自らの「現代的課題」をみつけそれを解決する場とし、高齢者は、今まで身につけてきた知識や経験を若い世代に伝えられるよう、世代間交流の場とします。

②社会教育関係団体、ボランティア・市民活動団体などへの支援

地域のために活動する団体等への支援や情報提供を行ない、地域の活性化へつなげます。また、団体間の交流の場を提供します。

③人材の発掘、生涯学習サポートボランティアの活用

地域のなかで特技や技術などすぐれた能力を持つ人材を発掘し、生涯学習サポートボランティアとして活用することで、各個人の学習成果を活かせる場とします。

◆取り組みの目標

- ・生涯学習サポートボランティアのグループを増やします。

(H21 年度実績 1 グループ)

施策の方向

(3) 図書館の充実

図書館は、読書活動に加え、市民の調査・研究など主体的な学習活動を活性化するため、有益な図書資料の収集や図書館サービスの充実を図るとともに、市民の身近な場所に、気軽に利用できる環境を整備することが必要です。また、図書館を中心に活動するボランティアなどの支援や人材育成を図り、市民との連携・協力による生涯学習活動の推進に努める必要があります。

そのため、図書館では市民が自分の価値を高め、生きがいを見つけることで心が豊かになるだけでなく、地域の文化や人材を掘り起こし、多くの市民が集い交流できる生涯学習活動の拠点を目指します。

◆主な施策

①南地域図書館（仮称）整備事業の推進

市の南地域における市民の生涯学習活動の拠点として、南地域図書館（仮称）の整備を進めます。

②ライフステージの充実

各種講座の開催やその学習成果を活かす活動場所の提供など、市民の自主的な生涯学習活動やボランティア活動を支援し、「ライフステージ」の充実を図ります。

③図書館の利用促進

図書館システムのネットワーク化の拡大を図り、多様化する学習ニーズに応じて図書資料を活用することにより、市民が身近な場所で課題解決できる図書館サービスを充実させ、図書館の利用促進に努めます。

◆取り組みの目標

- ・図書館の年間利用者数を増やします。

（H21年度実績 423,854人）

計画の取り組み目標（5年後）

市民が生涯にわたり学習できるよう支援することにより、地域づくりや人づくりを推進し、心豊かな社会を目指します。

【基本的な柱1】

- ・社会教育施設利用者数を1,020,000人にします。
(H21年度実績 1,010,031人)
- ・生涯学習活動への延べ参加者数を増やします。
(H21年度実績 27,496人)
- ・社会環境の変化によって生ずる現代的課題に対応した講座数を増やします。
(H21年度実績 24講座)

【基本的な柱2】

- ・多くの父母などに対して、子育てに関する家庭教育事業への参加者数を7,500人にします。(H21年度実績 5,022人)
- ・社会教育関係団体の横の連携を図るため、各校区ごとにネットワーク化を図り、その数を増やします。(H21年度実績 指数なし)
- ・市民の専門的で多様な学習ニーズに応えるとともに、郷土の歴史や文化、自然などを学ぶ講座や事業を実施します。(H21年度実績 11講座)
- ・地域いきいき子育て促進事業の実施回数を増やします。
(H21年度実績 897回)

【基本的な柱3】

- ・利用者が安全で快適に利用できるよう、老朽化した施設の充実を進めていきます。（平成21年度実績 豊城地区市民館リニューアル）
- ・生涯学習サポートボランティアのグループを増やします。
（H21年度実績 1グループ）
- ・図書館の年間利用者数を増やします。
（H21年度実績 423,854人）

